

# 専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺  
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033  
TEL. 0866-82-0488  
URL. <https://www.senkyoji.com/>  
E-Mail. [senkyoji@senkyoji.com](mailto:senkyoji@senkyoji.com)

題字 大橋曾水



## 往生によせて

住職 釋 龍生

昨年の十一月、私の父であり専教寺の前住職が、仏さまとしての新たな命をいただくべく、阿弥陀さまのお浄土へ参った。数え八十七歳の今生の歩みであった。近年は認知症を発症して、今生での生涯を終わる半年ほどは、病院で寝たきりの状態であった。

前住職との思い出と言えば、浄土真宗の僧侶としての私が今ここに存在する上での、ターニングポイントとなる印象深い思い出がある。私は十代の頃、お寺

に生まれたことを嫌っていた。お寺を継ぐことにも強い抵抗を抱いていた。寺族の子息であれば、思春期や青年期を迎えるにあたり、少なからず心に抱く者がいるのではないだろうか。そして二十代前半の頃、一時ではあるが自らの意思でお寺を離れて生活していた。しかし若く稚拙な考えで、永続的に身を立てていけるほど社会は甘くはなかった。振り返れば、当時の生活の何から何まで若気の至りであった。その全てがおままごとの延長と気づいた時、それまで身を置いていた環境から逃げ出すべく、衝動的に両親に電話をかけた

ことを今でもよく覚えている。「僧侶になりたい、お寺を継ぎたい」、両親からすれば、「自分の考えで勝手にお寺を飛び出して、今さら何をわがままな」と叱責してもおかしくない状況である。お寺に戻り、幼くもこれまでの人生を振り返りながら、言い訳がましいわがまま息子の身勝手な言葉を、父は叱責するでもなく最後まで口を挟まずに聞いてくれた。それどころか私の言葉や人生そのものを黙って受け止めて、ある意味背負ってくれたのである。

晩年は、同居する親子という関係もあって、積極的に会話をすると

いうことは少なくなっ  
てはいた。しかしながら人  
生を歩む中で、浄土真宗  
の僧侶として、また浄土  
真宗のみ教えを仰ぐもの  
として育ての身にある  
のは、ひとえに父・両親  
の導き無くしてはあり得  
ない。そしてそのことは  
未だに住職として、至ら  
ない日々を右往左往しな  
がら積み重ねていく中で、  
どんな状況にあらうと、  
何をしていようと、心の  
片隅を一時も離れること  
はない。

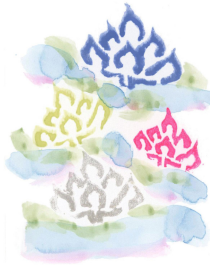
「歎異抄」の第五条に、  
ただ自力をすてて急ぎ浄  
土のさとりを開きなば、  
六道四生のあいだ、いず  
れの業苦に沈めりとも、  
神通方便をもってまず有  
縁を度すべきなり  
という言葉がある。この

言葉は、自力にとらわれ  
た心を捨て、速やかに浄  
土に往生してさとりを開  
いたなら、迷いの世界に  
さまざまな生を受け、ど  
のような苦しみの中にあ  
ろうとも、自由自在で不  
思議なはたらきにより、  
何よりもまず縁のある人々  
を救うことができる、と  
いう意味である。父は今、  
阿弥陀さまのお浄土で、  
家族や身内はもとより、  
生前ご縁を結んでくださっ  
た多くの方々に寄り添っ  
て、お念仏が身に沁み入  
るよう、微笑みながら見  
守ってくれている。私も  
今生の縁が尽きれば、必  
ず阿弥陀さまのお浄土へ  
参らせていただく。その  
時まで、救いのはたらき  
という温もりを、南無阿  
弥陀仏という名に込め

て、届け続けるその手の  
中で、二心なくお念仏を  
いただきながら、ただた  
だこの身を委ねていたい。  
遠い日に、父と遊んだ思  
い出を大切にしながら。



挿絵 内村 壽美子



# 仏教讃歌

毎月第2火曜日 午後1時30分～（変更あり）

講師：奥野 純子（ソプラノ）

ご近所の門信徒を誘って、ぜひご参加ください。

**お待ちしております。**



坊守

佐々木 ひろみ

昨年は大変お世話になりました

本年もよろしく願い  
いたします

昨年は、専教寺にとつ  
て大きなことがありまし  
た。十一月十四日、前住  
職であります 専法院釋  
龍範（佐々木 文麿）が  
お浄土へ往生しました。  
これまでもいろいろと体  
調を崩すことはありまし  
たが、一年半ほど前に入  
院してから、何度か肺  
炎を起こしていました。  
そのたびに、病院で手厚  
く治療していただいたお  
かげで、もち直しました  
ので、家族も「八十七歳  
という年齢で、よく頑張っ

たね」と話しています。  
寂しくなりましたが、こ  
れからも残された家族は、  
お互いに手を取り合っ  
て、力を合わせていこうと思  
います。

これまで、皆様には、  
前住職が大変お世話にな  
り、ありがとうございます。  
この場を借りて、  
これまでのご恩にお礼申  
し上げます。

昨年の十一月には、親  
族のみの密葬をおつとめ  
しました。二月二日には、  
門信徒葬を予定しており  
ます。ご都合がつかれま  
したら、お参りいただけ  
るとありがたいです。



一乗山 専教寺



専法院 釋 龍範

第十三世住職 佐々木 文麿 儀

本葬 門信徒葬



令和八年二月二日（月）午前十一時より

於 専教寺 本堂



旧年中はお世話になりました

本年もどうぞよろしくお願いいたします

一乗山 専教寺

総代 仏婦役員 一同

## 専教寺伝言板



### 除夜会

12月31日（水）午後11時45分～

### 元旦会

1月1日（木）午前零時45分～

今年より除夜会終了後、深夜になります

### 仏教讃歌（毎月第2火曜日）※日時変更あり

1月13日（火）午後1時30分～

### 前住職 本葬・門信徒葬

2月2日（月）午前11時～ 於 専教寺本堂

### 永代経法要

4月26日（日）時刻未定

決まり次第、お知らせいたします



菊：植崎 裕志・恭子

毎年きれいな菊をありがとうございます